



<略歴>

1955年生まれ。札幌市在住。

母や姉からアイヌ工芸に関する技術を教わる。アットゥシ織をはじめ、サラニブ・チタラペ・刺しゅう作品まで幅広く手掛けている。公益財団法人アイヌ民族文化財団の伝統工芸家(2002年)、公益社団法人アイヌ協会の優秀工芸師(2003年)にそれぞれ認定。また機動職業訓練の講師を務めるなど、後継者の育成にも取り組んできた。

貝澤 竹子
Takeko
Kaizawa

<受賞歴>

北海道アイヌ伝統工芸展 最優秀賞(2000)、優秀賞(2002/2023)
工芸作品コンテスト 優秀賞(1999/2000/2001)

「やっぱり伝統は残していきたい」

昔、ほとんどの二風谷の女性はアットゥシ織りの内職をして家計を支えていた。だから私たちも小さい頃は糸つなぎの作業を手伝っていた。母がアットゥシを織っていたところを黙って見ていた。時々いたずらして、ちょっと怒られたり。そうやってアットゥシ織りの技術を覚えたんですよ。

タペストリーにしても一枚一枚同じ文様を作らないように努力しているんですよ。小物でも同じ文様ではなく一点物一点物で文様が同じでも刺繍に使う糸の色を変えたりして、ほとんど同じものが無いように努力して作っているつもり。そういうところを見てもらえれば、そこが私のこだわりです。

全部手縫いの方がいいんじゃないかと思います。オヒョウの着物も全部手縫いですよね。伝統のものは全部手縫い。着物でもミシンは使いません。

やっぱり伝統は伝統で残していきたいですし、手抜きをしない仕事をしなくちゃいけないと思ってる。



わざ
技
Hands and Hearts
vol. 8





<略歴>

1943年生まれ。平取町二風谷在住。
1965年頃からアイヌ民芸品の製作を始める。これまでの経験と技術を活かし、機動職業訓練校やアイヌ文化実践上級講座の講師を務めるなど、アイヌ文化の普及啓発及び後継者育成に大きく貢献。
北海道アイヌ協会 優秀工芸師(2012年)認定

貝澤 かつえ
Katsue
Kaizawa

<受賞歴>

文化庁長官表彰(2023)
アイヌ文化奨励賞(2018)
北海道アイヌ伝統工芸展 最優秀賞(1993)、優秀賞(2009/2012)
工芸作品コンテスト入賞(1997)



<略歴>

1954年生まれ。白老町在住。
アイヌ彫刻師の父(故)山田国雄氏に師事し、18歳の頃から学んできた木彫りの技術を活かして、各所で展示や実演を行うなど、北海道内外に向けたアイヌ文化の普及啓発に努めるほか、アイヌ文化実践上級講座の講師を務めるなど後継者の指導・育成にも取り組む。

山田 祐治
Yuji
Yamada

<受賞歴>

北海道アイヌ伝統工芸展 最優秀賞(2022)
奨励賞(2019/2020/2021)
アイヌ文化奨励賞(2018)

「ものを大事するっていうことがいちばん大事」

ものを大事するっていうことがいちばん大事だから。
どんな小さい生地でも残しておいて、それを使って着物を作ったりした。



うちのばあちゃんがアットゥシ織りしてたんだ。それを私もやりたいと思って。ひまひまに、それでアットゥシ織りもした。

何でもばあちゃんの真似してやったのが未だにあるわけ。

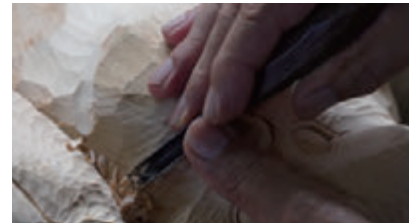


昔の人のデザインをいただいて、それに自分の考えを加えていくっていうやり方。目つぶって考えたら、ああいうふうにしたらいんじゃないか、こうできたらいいんじゃないかって頭の中で思うよ。頭に色々浮かんでくるものを思い出して描くから、その時々によって違うかもしれないよ。



「アイヌ文化は華々しい文化だとは思っていない。」

彫り方は独自の感覚っていうか、それぞれの感覚があるから。



目じり吊り上げたら、顔立ちがきつくなる。人間もそうだけど。だから目をあまり吊り上げないように。目じりを下げてやると、あんまり強い顔にならない。顔を優しくしないと。

ただのお土産を作ってる部分と芸術性のものがあって、いつか芸術性の作品も作りたいな、とずっと思っていた。



アイヌ文化ってのは質素なものだと思っているから。華々しい文化だとは思っていない。元々アイヌってのは自然の恵みに感謝して山菜でも自分の食べるものだけとって感謝する。

